

# 震災当時の県幹部職員の証言集について

## 1 ターゲット及び活用の想定

【ターゲット】 災害対応を行う自治体職員（主に管理職クラスを想定）

【有事における活用イメージ】

- ・管理職クラスが、担当部門の対応をピンポイントに閲覧し、実際に災害対応する際の判断の参考とする活用を想定

【研修等における活用イメージ】

- ・分野毎になされた重要な判断等を中心に、時系列に通して読むことにより、全体を俯瞰しながら当時の状況を追体験する形で感覚的にインプットする活用を想定

## 2 証言集の構成（事務局案）

兵庫県の「翔ベフェニックス」と同様に、分野毎に大枠で項目を立て関係する幹部等の証言を集約する構成とする。

<詳細のイメージ>

【前半（震災発生から5年目まで）の項目案】

県政運営 →知事，副知事（当時）

財政・復興計画 →総務部長（当時）、震災復興・企画部長（当時），財政課長（当時）

災害対策本部の初動対応 →危機管理監（当時）

保健福祉（被災者支援） →保健福祉部長（当時）

環境・生活の整備（ガレキ撤去・放射能対策） →環境生活部長（当時）

産業の復興（風評対策） →経済商工観光部長（当時），農林水産部長（当時）

インフラ復旧・まちづくり →土木部長（当時），都市計画課長（当時）

教育の復興 →教育長（当時）

【後半（震災発生から5年目以降）の項目案】

再生期・発展期における各分野（前半の項目と同様） →対応した各幹部

【巻末資料】

復興全体の年表に各執筆内容（特に重要な事柄や判断、決定など）を紐付けた資料

## 3 既にインタビュー収録を実施した証言者

- ・別添証言者リストのとおり ※不足分及び後半の項目を構成する証言は今後収録を行う